

# 2013年イカ類

単位：数量，1000トン、価格，円/kg

年	漁獲		産地					輸出入			輸出イカ
	スルメイカ	アカイカ	スルメイカ			アカイカ		マツイカ	コウイカ	調製品イカ	
			生	冷近	冷遠	生	冷				
24	169.1	5.5	68.5	33.4	1.6	0.0	7.1	75.1	16.4	41.6	28.9
25	180.0	5.0	78.4	28.5	0.7	0.0	2.2	93.2	13.2	35.2	13.7
%	106	92	114	85	44	1450	31	124	81	85	47

年	東京		在庫量				消費支出	加工品				
	スルメイカ		コウイカ冷	スルメイカ	コウイカ	その他	生(2%)イカ	イカ製品	イカ塩辛	干スルメ	燻製	缶詰
	生	冷										
24	10.0	4.7	0.2	36.7	4.6	27.9	2,336	31.3	19.7	7.4	9.0	1.6
25	9.2	4.0	0.2	26.9	5.1	25.8	2,306					
%	92	86	88	73	110	92	99	0	0	0	0	0

年	産地		輸出入		輸出イカ	東京		消費支出生(円)イカ				
	スルメイカ			アカイカ		スルメイカ	コウイカ冷					
	生	冷近	冷遠	生					冷			
24	204	263	224	153	229	416	844	219	429	363	744	2,288
25	251	349	238	112	422	423	834	326	464	420	747	2,347
%	123	133	106	73	184	102	99	149	108	116	100	103

## スルメイカの資源

平成年代に入って日本近海のスルメイカの漁獲は、平成10年を除くとかなり安定的に推移しており、20～40万トン台の高い数字を記録してきたが、近年やや減少傾向がみられ、本年は生が昨年を上回ったことで18万トン程度の漁獲であった。

太平洋側の漁獲の殆どを占める冬生まれ群（冬季発生系群）の資源量は、1981～1988年の間は30万トン以下の低い水準で推移していたが1989年以降増加に転じ、1996年には133.4万トンにまで増加した。その後は大きく変動する年はあるものの、概ね80万～120万トンの高い水準で推移した。調査船調査結果から推定した2013年の資源量は64.7万トンであった。親魚尾数は資源量と同様に1980年代後半から増加傾向を示し、1993年には15億尾に達した。2012年の親魚尾数は10.9億尾であった。資源水準は過去35年間の資源量の推移から中位、動向は2009～2013年の5年間の変化から減少と判断されている。

秋生まれ群（秋季発生系群）の資源量は、1980年代は主に50万トン前後（1981～1989年の資源量の平均値は51.2万トン＝低位水準と中位水準の境界）であった。しかし、1980年代後半以降は増加傾向となり、1990年代の平均資源量は108.7万トン（中位水準と高位水準の境界）、2000年前後には主に150万～200万トンとなった。その後、資源量はやや低下し、2003年以降は概ね100万～150万トンの水準にある。2013年の資源量は114.9万トンであり、2003年以降と同様の水準であった。漁獲割合は、1980年代半ばは30%以上であったが、2000年以降は20%前後に減少し、2012年は10.3%となった、といわれている。

## 産地水揚量と価格

25年の日本近海のスルメイカ水揚量（継続漁港）は生7.8万トン（前年：6.9万トン）、冷万2.9トン（前年：3.3万トン）と生鮮が増加、冷凍が減少した。

TACに基づく漁業種類別漁獲量はトロール2.8万トン（前年：2.3万トン）、まき網6.821千トン（前年：1.17万トン）、釣りの冷凍2.9万トン（前年：3.4万トン）、釣り生2.9万トン（前年：3.8万トン）であったが、小型釣りが減少、トロール増加、まき網は大幅減少、中型船凍船減少、定置増加であった。

冷凍は、本年も昨年同様、当初北陸船団が日本海スルメイカ主体の操業をし、青森、北海道、岩手船団がアカイカ（ムラサキイカ）操業であった。しかし、1次航海は過去にない不漁であった一昨年を上回ったが、前年に比べると低調であった。また年明け後に操業する三陸沖のアカイカ漁は近年好漁で推移してきたが、昨年は皆無状態で極めて低調であり、本年も若干の漁獲があったのみでみるべきものはなかった。この結果アカイカの水揚げは前年を下回り、近年でも最低の水準に終わった。また、秋から冬場の漁も前年を上回ったが総じて低調であった。

生スルメイカの海域別漁獲量は、日本海5,266トン（前年：5,482トン）、太平洋29,477トン（前年：57,245トン）、オホーツク9,379トン（前年：1,610トン）で、本年は太平洋が半減、日本海並み、オホーツクでは増加したのが特徴である。また九州北部での漁獲は3,993トンで前年（5,836トン）を下回った。

本年も中型船凍船は、当初スルメイカとアカイカ操業とに分かれ、秋口に昨年同様オホーツクに出漁し、操業したが海況条件もあって漁獲は少なかった。

また本年も業界では、従来からスルメイカー極集中の排除、三極漁場の選択的移動、漁獲努力量の分散、急速凍結によるブロック製品の品質向上等付加価値の高い魚種や製品作りの奨励、サイズ選択、IQFの促進等は定着している。

産地価格は、生鮮251円（前年：204円）、冷凍は349円（前年：263円）となり生鮮・冷凍とも堅調推移であった。

本年の特徴は、①本年の冷凍スルメイカの全体の水揚げは減少したが、IQF生産は前年を上回る生産になった、②本年のイカ類の魚価は当初から堅調で、初漁期の漁が低調であったことや漁期の遅れ等もあってジリ高推移が続き最後まで堅調推移であった、③本年の冷凍スルメイカ（R）のサイズ組成（八戸、小木）は、26～30サイズが35%で前年（25%）を大きく上回り、21～25尾サイズが26%で前年（33%）を下回った。20尾以下の大型は15%で前年（25%）を下回った、④AR、FOR、ペルー水域の漁場がなくなり、NZ、ロシア（今年はお漁実績なし）等になり海外イカ類の漁場は許可問題等もあり操業が更に狭まっている事情に変化はなかった、こと等である。

## 在庫量

25年は23年末の生イカの豊漁で在庫が嵩み、昨年同期より約1万トン少ない3.8万トンの在庫から始まり、本年も例年通り6、7月に最低になったが、その数量は1.2万トンと極めて少なく、加工業者は原料手当てに苦慮していた。その後、8月以降は例年どおり増加に向かったが、今年の漁がやや停滞気味の時期が長かったことで在庫の大きな伸びには繋がらず、越年在庫は3.8万トンと前年並みにとどまった。平均在庫量も、上述のようなことを反映し2.6万トンで、前年（3.7万トン）をかなり下回った。

## 消費地入荷量と価格

スルメイカの東京消費地入荷量は、生0.9万トン（前年：1万トン）、冷凍4千トン（前年：4.7千トン）であった。本年は近海の生イカ漁が不振であったため初漁期から夏場にかけて入荷が前年をかなり下回った。冷凍も元々産地水揚も少なかったこともあって減少した。価格は、生464円（前年：429円）、冷420円（前年：363円）で生鮮・冷凍とも堅調な推移であった。

消費支出でみると購入数量が前年並み、購入金額は単価高もあって前年を上回った。

## NZイカ

25年のNZイカ釣漁は、本年は2隻、695トンで前年（2隻、1,787トン）を大きく下回った。

産地水揚量（全漁連）は、706トンで前年（1,608トン）を大きく下回った。

価格は237円で前年（224円）をやや上回った。

## アカイカ

本年は昨年以上の初漁期にはまとまった漁で期待されたが、秋から冬にかけての漁は昨年同様極めて低調で漁皆無であった。ただ年明け後の三陸近海での漁は、凶漁で漁獲皆無であった。また昨年は沖合（東経170度以東水域）での漁は震災の影響で出漁はなかったが、2012年は22隻-1,504トンの漁獲をみた。小型船による近海での漁獲は昨年の5トンと変わりなく極端に少ない7トンの水揚げに終わった。

全漁連集計によると、生16トン（前年：3トン）、冷2,197トン（前年：2,731トン）であった。

産地価格は、生152円（前年：108円）、冷422円（前年：332円）であった。

海外アカイカは、本年は、公海漁場の操業もなくなったしたがって、漁獲は皆無となった昨年実績（4隻-1.448千トン）。

## 輸出入

25年の輸入イカ（コウイカを除く）は、中国主体に9.3万トンで前年（7.5万トン）をかなり下回った。

価格は、423円と前年（416円）を若干上回った。

冷凍イカの主要輸入国は、中国39,586トン（前年：33,840トン）、ペルー14,394トン（前年：8,468トン）、チリ7,410トン（前年：7,908トン）、米国7,347トン（前年5,064トン）、タイ6,473トン（前年：6,879トン）、アルゼンチン5,666トン（前年：622トン）、ベトナム4,391トン（前年：5,123トン）、インド1,699トン（前年：1,418トン）、フィリピン1,199トン（前年：1,248トン）、NZ194トン（前年：472トン）で前年同様中国のシェアが高かったが、今年はペルーとアルゼンチンからの搬入が目立って多かったのが特徴。

25年の輸出は、1.4万トンで前年（2.9万トン）を大幅に下回った。これは、国内供給量の少なさもあり、海外向け原料が少なかったためである。本年は中国（2,821トン）を抜いてベトナム（4,939トン）がトップにたち、タイ（2,407トン）が続いている

## モンゴイカ

25年のコウイカの輸入は、1.3万トンで前年（1.6万トン）を下回った。

輸入価格も、834円で輸入量の減少もあったがほぼ前年（844円）並みであった。

東京消費地入荷量は、0.2千トンで前年（0.2千トン）をやや下回り引続き漸減傾向が続いた。

価格は、747円でほぼ輸入価格の傾向と同じで前年（744円）並みであった。